



ウシ、ヤギなどの家畜やラット、マウスなどの実験動物を用いて、**哺乳類の繁殖を制御する中枢メカニズムの基礎的解明**を行っています。このメカニズムの解明を基に、**家畜の繁殖性を向上させる技術開発**を推進しています。同時に、**野生動物、外来動物、飼育動物の繁殖を抑制する技術開発**も行っています。また、**ウシの繁殖能力を低下させる生殖器奇形の原因遺伝子の同定**も行っています。家畜の繁殖能力が向上すれば、家畜生産効率及び畜産物の生産性が向上し、その結果、生産者の収益向上、動物性タンパク質不足の解消、家畜が産生する温室効果ガスの抑制につながります。野生動物等の繁殖抑制に成功すれば、野生獣害が抑制、生物多様性が維持され、その結果、農地・森林及び生物多様性が維持されます。以上の効果は、最終的にヒトの健康的な生活や地球環境の保全に貢献します。